

ゆめっとプラザ

2017
年度版

ANJO GAKUEN
COMMUNICATION MAGAZINE



Anjo Gakuen 105th Anniversary

安城学園創立105周年記念

安城学園「中興の祖」寺部清毅先生の生涯

愛知学泉短期大学 生活デザイン総合学科

ファッションデザインコンテストで培われる働く女性としての力

祝 第74回 NDK ファッション デザインコンテスト

大賞(大阪府知事賞)受賞



松島 里沙さん
(生活デザイン総合学科 2年 山本ゼミ)



先生やゼミの仲間のおかげ
で受賞できました！

自分に自信がなく、心を成長させたいと思って山本先生のゼミに入りました。コンテストは普段の授業では決して体験できない貴重な学びの場で、最後までやり遂げる力、諦めない力がついたと思います。自分でとことん考えること、時間の管理をきちんとすることなど、まだまだ課題は沢山ありますが、先生を信じ、仲間と励まし合って、ここまで頑張ってきて本当に良かったと思います。



皆で協力してゼミとしても成長できました！

先生からひとこと

7月に行われた名古屋のコンテストでは、自分の弱さと甘えから満足のいく作品にはならないまま本番を迎え、苦い経験をした学生もいました。今までは「なんとかかなる」と考えてきたかもしれませんが、やらなければならぬものがないことがあります。彼女たちは身を持ってそれを実感したことでしょう。辛く厳しい状況でも逃げ出さずに向き合うことが勉強です。私はこのゼミを通して努力することや辛抱することの大切さを身を持って体験させていますが、今回のコンテストではしっかりとその成長を感じました。その結果が受賞にもつながり、残念ながら入選を果たせなかった学生たちもこのコンテストでは十分な達成感を得られたはずです。あとは卒業までに、学生たちにしっかりと自信を付けさせることが私の仕事ですね。



山本 豊 教授



ファッションデザインコンテストで
培われる働く女性としての力

生活デザイン総合学科の山本ゼミでは、服作りを通して社会人として必要な能力を学んでいます。コンテストへも積極的に参加しており、今年は7名の学生が第74回NDKファッションコンテストへの出場を果たしました。

“今”を生き抜く女性を 育てる現代の裁縫塾

本学園の創立者寺部だい先生が女性の自立と社会的地位向上を図るため、安城裁縫女学校を創設してから105年。今でもその思いは受け継がれ、社会へ貢献できる人材の育成を目指しています。

「働く女性をつくっています」。そう話す生活デザイン総合学科山本豊先生のゼミは服飾制作を中心に活動しており、学園創立の精神が現在も色濃く残っています。毎年ファッションコンテストで多数の入選者を輩出し、厳しくも愛のある指導に定評がある山本ゼミ。本格的に服飾を学びたい学生はもちろん、人間的に成長したいと考えて、このゼミの門をたく学生も多くいます。

そんな山本ゼミが最も気を引き締めて臨むのが、NDKファッションデザインコンテストです。本コ

も良い作品にしようと直前まで作業を続けました。

そしていよいよコンテストの開幕です。ショー形式でプロのモデルが作品を身に纏い、審査員が上げた点数札の総合得点を競い合います。やはり全国のレベルは高く、札が上がる瞬間は手に汗を握ります。審査も終盤となり、本学の学生の中で最後に登場したのは松島里沙さん。フレッシコンテストの準備では「逃げないのよ。やるしかないの!」と山本先生に言われ、懸命に作業していた姿が強く印象に残っています。そんな彼女も前回の反省を重く受け止め、次こそはと意気込んで臨みました。その結果最高得点をたたき出し、見事大賞(1位)を受賞。あまりの感激に、審査員を務めた山本先生もコンテストの講評を語りながら

思わず涙がこぼれました。

会場には最終審査に出場できなかったゼミの仲間も駆けつけ、終演後には作品1つ1つをイメージして作られたブーケをプレゼント。思いがけないサプライズに出場した学生たちは感動し、みんなこの日までの努力と入賞を抱き合って喜びました。「実践の中でしか実際に社会で使える知恵(＝社会人基礎力)は身に付かない」と山本先生は言います。自分で生きていく力を養うことを目指すこのゼミでは、その実践の場がファッションであり、コンテストでした。このゼミで一回りも二回りも大きくなった学生たちは、胸を張って卒業していくことでしょう。社会で輝きながら活躍していく彼女たちの将来が楽しみです。

愛知学泉短期大学の歴史

明治45年、寺部三蔵・だい夫妻が現在の学校法人安城学園の前身となる安城裁縫女学校を開校。昭和5年には、現在の愛知学泉短期大学へと続く、安城女子専門学校を開校しました。



ミシン実習の様子(昭和2年)



教員採用試験では学力のみならず面接・論作文・実技・模擬授業など、広く教師としての資質を問う評価が行われます。教員採用試験は非常勤など教師としての経験がある人も受験するので、現役で合格するためには学生本人の相当な努力が求められます。そのため愛知学泉大学では、教員を目指す学生へ様々な支援を行っています。



今年度から3年生を対象にエクスターン制度を始めました。近隣小学校や子育て支援センター等のご協力のもと、小学校教員や保育士を目指す学生がボランティアや自主企画活動として授業の補助や読み聞かせ等を行います。この体験により具体的な教育現場のイメージが掴め、教職への意志を固めた学生も多く、厳しい教員採用試験を乗り越えるモチベーションに繋がることを期待しています。また、面接や集団討議の練習を行う「教師塾」では、実際に面接官経験のある先生が本格的な指導を行っています。こうした新しい取り組みが実を結び、学生たちの今後の教育実習や採用試験に役立てば嬉しいと思います。

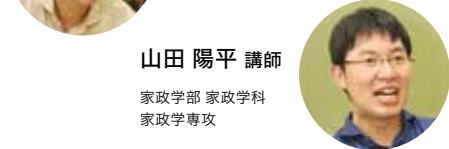


「教師塾」では本番さながらの緊張感で面接などの指導をします



丹羽 誠次郎 教授

家政学部 家政学科
家政学専攻 主任



山田 陽平 講師

家政学部 家政学科
家政学専攻

VOICE

あいだ ゆうき
相田 優希さん (左)

家政学部 家政学科 家政学専攻 4年

岐阜県公立学校教員採用選考試験 (高等学校教諭・家庭) 合格

今年の夏は、全国の誰よりも勉強しました。朝から晩まで教室で缶詰めで、家ではお風呂と睡眠だけという生活でした。これだけ集中できる環境とやる気にしてくれた大学には本当に感謝しています。

あまの きよくに
天野 清国さん (右)

家政学部 家政学科 家政学専攻 4年

愛知県公立学校教員採用選考試験 (中学校教諭・家庭) 合格

何度掛けそうになっても「できる。必ずやれる」と自分に言い聞かせて勉強を続けました。短期集中で仲間と一緒に頑張れたのが大きかったです。あれだけ辛かった勉強が最後は楽しくさえ思えました。

VOICE

わたなべ ゆい
渡邊 唯さん (左)

家政学部 家政学科 こどもの生活専攻 3年

生の教育現場を体験でき、改めてその大変さややりがいを感じました。同時に自分に何が足りないか、何をいま学ぶべきかも見えた気がします。この貴重な体験を生かしてこれからの学修に臨みたいと思います。

こた ゆか
小田 優花さん (右)

家政学部 家政学科 こどもの生活専攻 3年

体験を通じて、子どもたち一人ひとりが違うように、先生方の指導や教え方も状況や環境に応じて柔軟に考える必要があるんだなと感じました。将来は子どもの個性を大切にしたい先生になりたいです。



加藤 万也 教授

家政学部 家政学科
こどもの生活専攻 主任

前田 治 准教授

家政学部 家政学科
こどもの生活専攻



学生を熱くさせ、やる気を高めるサポート体制



成績を貼り出し、自らの力を「見える化」して意識を高めます

こうした努力により、今年は例年より公立中・高の採用試験合格者が増えました。今後もさらに合格者を増やすよう、専攻一丸となって取り組んでいきます。



愛知学泉大学 家政学部 資格取得・試験合格への取り組み

愛知学泉大学家政学部では、管理栄養士専攻、こどもの生活専攻、家政学専攻の学生たちそれぞれに試験合格に向けた様々な支援を行っています。今回はその取り組みの一部をご紹介します。



栄養士の上級資格である管理栄養士の免許を取得するための国家試験。試験科目は各種栄養学を中心に9科目+応用問題と幅広く、栄養士の免許を持つ者のみの受験にもかかわらず全国の合格率は約半数にとどまっています。これに対して愛知学泉大学は全国平均の2倍近く、毎年100%近くの合格率を誇っています。



ひび こうた
日比 公大さん

家政学部 家政学科 管理栄養士専攻 平成28年度卒業。
現在はメーキュー株式会社に勤務。



おくむら りょうこ
奥村 良子さん

家政学部 家政学科 管理栄養士専攻 平成28年度卒業。
現在は株式会社スギヤマ薬品(ドラッグスギヤマ)に勤務。

第31回管理栄養士国家試験合格率

95.2%

全国平均 54.6%

合格者数 59名

第30回 96.8% 全国平均44.7%

第29回 100.0% 全国平均55.7%

第28回 97.1% 全国平均48.9%

第27回 100.0% 全国平均38.5%

第26回 98.3% 全国平均49.3%

「全員合格」を目指し、
充実のカリキュラムと
熱血指導！

本学の管理栄養士国家試験の合格率は、8年連続95%以上です。しかし、専攻では常に100%を目指しており、全員が管理栄養士として卒業することを目標としています。管理栄養士の国家試験には範囲がないと言われますが、ガイドラインがあり、それに基づき学修指導を行っています。毎月の模試の後には、200問の設問に対する解答と解説を書きだし、覚えるだけではなく理解させるようにしています。また4年生の夏冬には特訓講座を設け、個人の弱みを克服するとともに本番に向けて追い込みをかけていきます。最後に「体調管理」の指導も忘れてはいけません。万全なコンディションで臨んでこそ実力が発揮されます。試験は当日一発勝負。結局はどれだけ自分が準備できたのか合格を分けるのです。

私たちの仕事は学生を管理栄養士としてスタートに立たせてあげること。試験合格がゴールではありません。学生たちには厳しくも愛情を注ぎ、一人ひとりの無限の可能性を信じて教育しています。



山内 理充 教授

家政学部 家政学科
管理栄養士専攻
国家試験対策委員長



増田 尚 准教授

家政学部 家政学科
管理栄養士専攻 主任

VOICE

日比 公大さん

初めは模試の点数が全く取れず、クラスでもかなり出遅れていると焦っていました。そんな時に友人たちが勉強会を開いてくれました。とても親身に教えてくれ、仲間と一緒に頑張ることで挫けずに最後まで踏ん張ることができました。無事試験に合格し、今は給食委託会社に勤めて患者食を作っています。今ではあの時勉強を頑張ったよかったです。心から思います。支えてくれた友人と先生方には本当に感謝しています！



一緒に試験を乗り越えた仲間たち！
卒業旅行でUSJに行きました。

VOICE

奥村 良子さん

4年の進級時に成績不振で呼び出され、「このままでは受からない」とはっきり言われたんです。そこから、絶対に受かってやる！という気持ちで猛勉強を始めました。下の下だった成績が、夏の特訓明けから成果が出始め、あんなに厳しかった先生に褒められた時はすごく嬉しかったです。就職後、働きながら登録販売士の資格を取得できたのも試験勉強で培った諦めない精神力の賜物です。先生方の熱意が私を変えてくれました。



よく相談に乗ってくれた久永先生。
とてもフレンドリーです！



／ 看板は全て手作り！ ／

歩かまい稲武



5月に開催されたウォーキング大会「歩かまい稲武」。学生たちはいなぶまゆっこや商店街、抽選会などのお手伝いを行い、地域の方とたくさん交流しました。



OPEN INABU

稲武で農業及び就業体験企画を行っている「OPEN INABU」のプロジェクトの一環として、林道整備とどんぐりの木の植樹に参加させていただきました。地元の方と一緒に汗を流して作業をする中で、自然とコミュニケーションが生まれ、意欲的な活動ができました。



糸引き体験イベント in 東山動植物園

東山動植物園での糸引き体験イベントでは、どうしたら来場者に興味を持ってもらえるかを考え、みんなで意見を出し合い工夫して取り組みました。糸引きを懐かしむご老人や、生糸のミサガを喜ぶ子どもたちの姿を見ることができ、イベントは大成功でした。（※写真は昨年の様子です。）



掃立・紙芝居 & クイズ

地元の小学生と一緒に「掃立」を見学し、その後は学生による紙芝居とクイズコーナーを開催。小学生に楽しく養蚕を学んでもらえるようチームで協力し、会場を盛り上げました。また、金田夫妻から糸引きを実際の場で教えていただき、技術も学びました。

先生からひとこと

学生たちにはこの実習で、伝統的な文化や技能を現代に継承することの大切さと難しさを感じ取ると共に、「どんな状況でも自ら道を切り拓くことができる力」を身につけてほしいと考えています。

今年は「いなぶまゆっこ」から「地域の活性化」まで活動が広がりました。これまでの実習が成果を上げ、学生たちの活動が認められていると感じています。求められる内容への対応も臨機応変に考える必要があります。こちらの目標設定を変えるなど枠に囚われず状況とニーズに応じていくことが、私の目指す地域貢献でもあります。これからもこの地域で活動させていただけることに感謝



堀田 裕子 教授

し、必要とされる活動を汲み取り、言われたこと以上のことを行う能力（主体性と創造力）の育成を目指していきたいと思っています。

化といった日本の社会全体が抱えている課題。一方、その背景にある高齢化や過疎化といった日本の社会全体が抱えている課題。一方、その背景にある高齢化や過疎化といった日本の社会全体が抱えている課題。

ら、活動を大変喜んでくださり、学生たちのパワーとアイデアを高く評価してくださっています。また、今年度はいなぶまゆっこの活動にとどまらず、稲武の地域イベント（『歩かまい稲武』、『OPEN INABU』）のお手伝いをしてほしいとお声をいただき、活動の範囲を拡大。飯田学部長も参加し、学生の人数も過去最多となりました。

実習を行った学生たちは、地域コミュニティの輪の中で活動することで、自らの立ち位置を自覚し、次第に主体性のある行動をとれるように変化していきました。稲武の人々の生き生きとした暮らしや家族のような絆を感じ、一方、その背景にある高齢化や過疎化といった日本の社会全体が抱えている課題。一方、その背景にある高齢化や過疎化といった日本の社会全体が抱えている課題。



- 1 地元の小学生を対象としたクイズコーナー。
- 2 蚕が糸を吐き出す際に蚕（まぶし）と呼ばれる蚕の家に入れ、そこで繭を形成していきます。
- 3 繭は非常に丈夫で軽いうえ手ざわりもよく、天然繊維の中で最もすぐれた繊維といわれます。

「いなぶまゆっこ」とは？

いなぶまゆっこは桑の育成から養蚕、繭づくり、作品制作に至るまでを一貫工程で行っている団体です。平成9年に誕生し、現在は主に8人のメンバーが活動しています。代表を務める金田平重さんは養蚕の指導を行い、奥様のちるのさんが糸引きや機織の技術指導を行っています。また、「まゆっこクラブ」では繭細工を中心に作品の展示・販売をしています。



金田 ちるのさん 金田 平重さん

る大きな課題にも目が向くようになった結果でしょう。稲武地区という生きた社会に入ることで、学生たちは多くの気付きや学びを吸収しました。稲武地区での現代マネジメント実習は「地域の活性化に貢献できる人材の育成」を教育目標に置く。本学の理念を具現化した取り組みです。フィールドが広がった今年度は、様々な世代や立場の方々と交流し、地域に対するそれぞれの思いや考えに触れ、改めて自分と地域社会との関わり方を考えさせられたことでしょう。今後はこうした経験を一過性のものに終わらせることなく、いかに自らの行動原理として定着させていけるかが大切です。

愛知学泉大学 現代マネジメント学部

稲武の伝統産業を学び、地域活性化を考える

現代マネジメント学部は豊田市稲武地区にある「いなぶまゆっこ（まゆっこクラブ）」と協働を続けています。今年は稲武地区のイベントにも参加し、地域社会から多くのことを学び取ってきました。

実習3年目。実績を積み重ね、地域貢献に発展

地域団体や企業、行政と連携し、学生自らが現場の方と一緒に課題解決に取り組む現代マネジメント実習。座学だけでは身につけられない実践力を育み、普段学んでいるマネジメント力、社会人基礎力の発揮、向上を目指しています。

豊田市の稲武地区にある養蚕と繭・シルクの作品制作を行う「いなぶまゆっこ（まゆっこクラブ）」はその実習先の一つです。今年で136回目となる伊勢神宮への献糸を行うなど、伝統ある技術を受け継ぎ守ってきた団体ですが、現在はメンバーの高齢化や後継者問題など深刻な課題を抱えています。

現代マネジメント学部ではいなぶまゆっこの協働を始め、今年で3年目を迎えます。例年、いなぶまゆっこの方に養蚕から糸引き、作品制作までを教えていただき、学内外で稲武の養蚕の周知活動を行ってきました。掃立（掃立）の蚕に初めて食事を与える儀式の際に行う地元の小学生を対象にした紙芝居やクイズコーナーは恒例となり、東山動植物園での糸引き体験イベントは都市部の様々な世代の方にクラブの活動を知ってもらう場になっていま

先生からひとこと



義務教育で宿題も多かったであろう中学校とは違い、高校では自分から勉強を進めていかなければいけません。しかし、中には中学校の学習内容に自信がない生徒もあり、その子たちはこのままの状態では授業を受けていても全く楽しくないでしょう。Classiの導入は基礎学力の向上もねらいの一つです。自学の習慣を身につけさせると共に、勉強が苦手な生徒たちのフォローをしていくことで、全体の学力アップや共学の質の向上にも繋がっていくと考えています。

金本 勢一郎 先生
英語科教諭。
第1学年主任、
iPAL 委員会主任。

これらの機能を使うことで、生徒たちは具体的な志望校に対する到達度の全国比較や、過去の問題の傾向に合わせた対策をとることもできます。膨大なデータベースを持つクラウドサービスであるだけに、上手く使えば相当便利なツールとして利用できると思っています。

今後の利用方法としては、例えば動画を利用して授業の予習を済ませておき、学校では疑問点の解決や集団討議に当たるとか、習得内容の確認用に生徒個別のWebテストを行うなど色々応用ができるのではと思っています。これを機会に、生徒自身が自らの課題に気づき、自ら考えて学んでいく姿勢を身につけてくれることを期待しています。



Communication 繋

「Classi」は保護者との情報共有にも有効です。進路指導や保護者面談でも活用していきたいと思えます。

Study 学

「学習動画」で予習・復習ができ、分野や難易度で分類された「Webテスト」で理解度を確認することができます。



Record 記

「生徒カルテ」は、生徒一人ひとりの成績、テストや模試の結果、進路希望が一元管理されており、いつでも蓄積・閲覧ができます。



かみ や しゅんすけ
神谷 俊介 君 (1年4組)
刈谷市立依佐美中学校出身。
弦楽部所属。担当楽器はコントラバス。中学時代はオーケストラ部でトロンボーンを担当。

STUDENT'S VOICE

「Classi」のおかげで 自宅学習の習慣がついてきました

「Classi」は電車の待ち時間などのちょっとした空き時間も使えて、手軽に勉強できるのがいいです。間違えた問題もすぐに確認できるので、苦手をそのままにせず、一つひとつ消化しています。今までは毎日の学習習慣があまりついていませんでしたが、「Classi」を始めてからは、気付いたら端末を開いて課題を考えています。授業の動画や英語のヒアリングなどのコンテンツも充実しているそうなので、興味のあるところからどんどん進めていこうと思っています。



かみ や まい
神谷 真唯 さん (1年5組)
高浜市立高浜中学校出身。
弦楽部所属。担当楽器はヴィオラ。
将来は図書館司書か管理栄養士の道に進みたいと考えている。

アナログとデジタルの それぞれの良さを生かすことができたなら

私の場合は計算式や筆記問題など、紙に書いて考えるのが好きな方なので、タブレットなどで勉強するのに初めは抵抗がありました。実際に今でも「Classi」を使って勉強するときは端末の脇に紙を置いて勉強しています。しかし、学習動画で解説を繰り返し視聴できたり、暗記科目を目と耳で勉強できたりするのはいいですね。紙と「Classi」、それぞれの良いところを使い分けて効率よく学習することで、学業と部活動の両立を目指していきたいと思っています。



自ら学ぶ力を育む

安城学園高等学校の 取り組み

自ら学び、共に学ぶ「自学・共学」を目指す安城学園高等学校。本校ではその中の「自学」を支援するツールとして、今年度から1年生を対象に『Classi』を導入しました。『Classi』を使えば生徒一人ひとりが、いま最も取り組むべき課題をICT※を活かして過去の実績から抽出して学ぶこともできます。この取り組みについて、第1学年主任とiPAL※委員会の主任を務める金本先生に話を伺いました。



Classiを使った学習の様子。
生徒たちは各自のペースで問題に取り組んでいる。

※ ICT：情報通信技術（Information and Communication Technology）。
※ iPAL：iPad + Active Learning を表す安城学園高等学校の造語。タブレット端末iPadを有効に活用した学習の実践を目指している。

中学の復習を中心に、 1週間単位で配信

自ら学ぶ力を育むためには、一人ひとりの生徒に毎日の学習習慣を身につけてもらうことが大切です。そのため本校では1年生を対象に、自宅や外出先でも気軽に携帯端末で学習ができるClassiを導入しました。今はまだ導入段階ですので、いきなり高度な課題に取り組みせるのではなく、初めは週単位で中学校の復習などの簡単な問題から課題を

与え、週末に小テストをして個々の習得状況を把握しています。

未提出の場合は居残り 授業で教師が個別指導

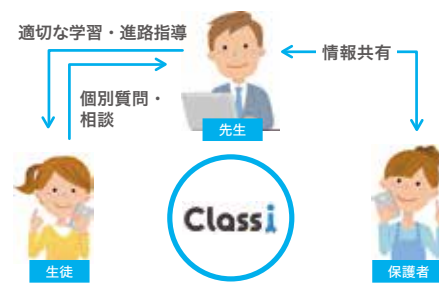
具体的には、まず我々教員が各教科で問題を作成し、金曜日に配信します。各々の生徒は自宅のパソコンやスマートフォン、タブレット端末でそれを受取り、水曜日までには解答をします。木曜日の朝が提出期限となっていますが、

問題が難しくて解けなかった、部活動その他で時間が取れなかった等の理由で未提出の場合、木曜日の放課後は居残り授業となり、解答できるまで教員が直接指導します。初めの頃は、やらなければいけないとわかっていながらもついついサボってしまったという生徒が何人か見られましたが、何回か続けているうちにそういった生徒の数は徐々に減り、今では数名を数えるほどになりました。

ベネッセの持つ 膨大なデータから 最適な課題を抽出

生徒によって反応は違いますが、今の子どもたちは小さいころから電子機器に触れる機会が多かったせい、端末で勉強すること自体には抵抗は少ないようです。Classiの優れているところは、個々の生徒の学習を記録し、一人ひとりの弱点や課題を見つけ出し、最適なレベル・内容の問題を自分で抽出できるところです。こ

安城学園におけるClassi※の活用



※ Classi: ソフトバンク(株)と(株)ベネッセが共同開発したクラウドサービス。膨大なデータに基づき、生徒一人ひとりに合わせた最適な学習コンテンツを提供できる。

文化祭で実践した岡崎城西高校の社会人基礎力

社会人基礎力の育成という観点から、今年度の文化祭を進めるにあたり、岡崎城西高校では全校を挙げて以下の内容を強く意識して臨みました。

主体性	クラスの中で、自分の任務を自覚し積極的に取り組む。
働きかけ力	クラスメイトの任務も知り、声をかけながら取り組む。
実行力	自分の任務に少し高い目標を設定し、その実現に向けて取り組む。
課題発見力	クラス企画に取り組む中で、生じた問題点などを明らかにする。
企画力(計画力)	クラス企画に取り組む中で、生じた問題点などに対する解決策をつくる。
創造力	解決策をつくる際に、既存の発想にとらわれずに考える。
発信力	自分の意見をクラスメイトにわかってもらえるように伝える。
傾聴力	クラスメイトが話しやすい環境をつくり、丁寧に相手の意見を聴く。
柔軟性	クラスメイトの意見の違いを理解し、自分の考えに固執しない。
状況(情)況把握力	クラスという集団の中で自分が何をすべきかを理解する。
規律性	あくまで社会人のルールや人との約束を守りながら、クラス企画の実現に取り組む。
ストレスコントロール力	クラス企画に取り組む中で生じる様々な困難を、自分の成長の機会だと前向きに解釈する。

大変なことも、皆で協力すれば乗り越えられる



文化祭を終えた後の実行委員会反省会。チームリーダーがそれぞれ文化祭を振り返り、引退する3年生が一言ずつ言葉を贈りました。この文化祭に協力してくれた先生たちからも労いと賞賛の声もあり、最後は一丁締めで今年の文化祭は幕を閉じました。

先生からひとこと



福岡 正臣 先生
美術科教師。
自主活動部部長。

本校の文化祭は、生徒やご家族はもちろん、日頃お世話になっている地域の方々や関係者に感謝の意味を込め、我が校の1年間の成長の軌跡を見て楽しんで頂く大切な行事です。しかしこの行事が、様々な葛藤や軋轢の中、毎年数十名の実行委員のまさに血と涙の結晶で作られていることは、意外と知られていないかもしれません。教員は基本的にアドバイザーでしかなく、悩み、考え、作り上げているのは生徒自身なのです。そこには自発性や協調性、傾聴力や考え抜く力など、社会人としての基礎力が求められます。そして今回は特に「チームで働く力」が養われたと感じています。苦しいことも多かったけれど、最後までやりきった実行委員のみんな、本当にお疲れ様でした！

功のために、委員会を上手く機能させることはもちろん、この行事で引退する3年生は後輩に引継ぎ準備をしていかなければならないのです。

本番前日のリハーサルは夜まで続きました。体育祭での音響トラブルを反省し、文化祭では進行をスムーズに行うためのチェックも入念になります。本校の文化祭は毎年3千人以上の来場者が訪れる一大イベント。この行事を成功させ、「城西の文化祭は楽しい」というイメージを守らないといけないプレッシャーを実行委員会は重く受け止めています。

文化祭初日のテーマ企画は今年から始まった新しい取り組みです。東北スタディツアーの報告や防災について全校生徒への投げかけがあり、繋がりをテーマに文化部が合同で総合芸術舞台を作り盛り上げました。挨拶に立った福園さんは、想像以上の手応えを感じ、「舞台の人も含め、学校全体で盛り上がるという気持ちがあつく伝わってきました」と笑顔で振り返りました。



文化祭カウントダウン看板の制作の様子。みんな協力して完成させました。

実は、福園さんはこれまでに何度も実行委員長を降りたいと考えました。「人も違えば考えも異なり、教わったことが必ずしも通用しなくて苦しみました。リーダーの重圧も辛かったですね。」一時は周りも心配するほど悩み、担任からも受験勉強との両立ができるのか不安視されたそうです。しかしそれを乗り越えることができたのも、また周りの仲間たちの力でした。「二人で焦って空回っていたんですが、次第にみんなが考えて動いてくれるようになったんです。自分だけで抱え込まなくても大丈夫だと思えたら、少し肩の力が抜

受験勉強も持ち前の負けん気を取り組み、次のテストでは好成績を収めて担任を驚かせました。熊谷君も「準備の後半は、後輩たちもすごく自覚が出てきました。すると気持ちに余裕も出てきて、最後はみんなが楽しそうに準備をできるようになったんですよね」と目を細めます。

社会人基礎力の育成を強く意識して臨んだ今回の文化祭。その運営の過程では社会人として求められるチームで働く力や考え抜く力が養われています。今年は新しいことに挑戦することで一歩前に踏み出すこともできました。日々の高校生活を真摯に取り組むことの大切さを改めて実感できました。



- 一日目の合同群舞の様子。この他にも防災フォーラム、18歳選挙権などを取り上げた企画と共に、歌やダンスで会場を盛り上げました。
- 二日目の一般公開日はたくさんのお客さんでにぎわいました。
- 全クラスが協力して完成させたネットアート。今年は熊本城です。
- この文化祭を企画・運営した実行委員たち。
- 特設ステージの後ろに立てる特大パネルのイラスト図。復興から学び、新しい未来を創りあげていきたいという想いを込めました。



ふくぞの みく 福園 未来 さん (3年3組)
岡崎市立六ツ美北中学校出身。
生徒会長、文化祭実行委員長。

くまがい まこと 熊谷 真 君 (3年11組)
岡崎市立翔南中学校出身。
文化祭実行委員 総務。

文化祭の運営における社会人基礎力の育成

岡崎城西高等学校 文化祭実行委員会インタビュー

「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」。社会人基礎力と呼ばれるこれらの力を身につけるためには、生徒会活動や実行委員会の運営は、まさに絶好の機会と言えるでしょう。今年創立55周年を迎える岡崎城西高校の伝統ある行事の取り組みを通じて、社会人基礎力育成の生の現場を見ました。

文化祭運営を通して 気付き、学び、身に付く力

「緊張感がない。チームの意識が低い。周りもそれを許してはダメだ」。8月8日、夏休みに行われたミーティングには厳しい空気が流れていました。自主活動部部長の福岡先生の言葉に生徒たちの背筋が伸びます。

今年の文化祭のテーマは「Remake(リメイク)」。6年間続けてきた東日本大震災に対する支援や交流、昨年の熊本地震、今年の九州での水害に対する活動などを踏まえ、改めて災害や復興、人と人との繋がりを考えようという意思表示です。6月の体育祭の直後から準備をし、夏休み合宿でそれぞれの進捗を報告して確認するのが毎年の恒例だったのですが、ここで教員たちから喝が入りました。

グループで物事を行う難しさは、上の立場であるほど痛感します。生徒会長兼文化祭実行委員長を務めた福園さんもその一人です。「どうしたら皆が自発的に動けるか。参加意識を高めるために仕事は全員に振り、指示の仕方それぞれ変えています」。また、実行委員長を補佐する立場である総務の熊谷君は、後輩育成のためにできるだけ3年生に仕事が集中しないよう気を配ったと言います。文化祭成

たくさんの経験ができる機会を与えたい。
子どもたちは想像以上に吸収してくれました。

大学幼稚園の魅力は園独自の多彩なプログラムと充実した設備です。好奇心旺盛な堅志は、英語やプール、体操などどれも夢中になって参加しています。園長先生とのサッカーが大好きで、課外活動の体操やピアノ、もじクラブにも通って、とても充実した園生活です。家庭以外の場所で協調性や社会性を身に付けてほしいと思い、規模が大きくしっかりとした教育が受けられるこちらに入園しましたが、思っていた以上に子どもたちは成長してくれました。入園してすぐは堅志もお友達とけんかをする事もありましたが、今では思いやりを持って接し、先生のお手伝いもできるようになりました。年

長として年下の子の面倒を見ることもあるそうで、家では見られない世話好きな一面も知ることがで

きましたね(笑)。3人兄弟の末っ子の堅志ですが、この園でたくさんのお友達ができ、兄弟とは違った関係を学び築くことができました。これからも幼稚園で育んだことを大切にして、人の気持ちを大事にできる子に育ってくれればと思います。



Interview 02

愛知学泉大学附属幼稚園



平家

母：知佳峰さん

子：堅志くん
(地球組)



サマーキャンプでカレー
を作り挑戦。美味しい！



運動会では息の
合った組体操を見
てもらいました。

Interview 03

愛知学泉大学附属桜井幼稚園



上野家

母：晴菜さん

子：喜生くん
(あおぞら組)



ドキドキのお泊り
会。ぐっすり寝れ
たかな？



みんな仲良し！
お外で元気いっば
い遊んでいます。

子どもの気持ちを上手に汲み取り、
得意や関心をぐんぐん伸ばしてくれます！

桜井幼稚園には喜生のお兄ちゃんの時からお世話になっているのですが、うちの子たちには遊び方を自分で考える桜井幼稚園の方針がぴったりでした。社会では自分で考えて行動する力が必要なので、遊びの中でそれを身に付けていってほしかったんです。喜生は物を作ることが特に好きなので、園の造形教室にも楽しそうに通っています。先生たちも子どもたちのことを細かく見てくださり、その日の様子をおたより帳にびっしり書いてくれるんです！意欲を引き出すのも本当に上手くて、お泊り保育でカレーを作った時にはニンジンの切り方を褒められたらしく、家に帰って「切ったニンジンを見て！」と言って、またカレーを作り始めました(笑)。その様子をドキドキしながらも見守り、我が子の成長を実感しましたね。今年度でいよいよ卒園です。今年の七夕の喜生の短冊には「ずっと幼稚園にいたい」と書かれていて、本当に幼稚園が大好きなんだという気持ちが伝わってきました。



安城学園の

お母さんたちの“こえ”を
お聞きしました

幼稚園に入って よかったこと

Mother's Interview



安城学園の三幼稚園の建学の精神は『真心・努力・奉仕・感謝』。

子どもたちのやさしい気持ち、素直な心を伸ばすことを大切にしています。また、教職員一人ひとりが子どもたちそれぞれの個性や成長の度合いを見極め、きめ細やかな保育ができるように努めています。

不安だった園生活も、温もりのある保育の
おかげで安心して任せられました。

私自身初めての育児ということで、息子が上手く幼稚園に馴染めるのか、とても心配していました。早生まれということもあり、他の子に比べて体も小さく動きもゆっくりしていたので尚更でしたね…。入園してしばらくは、門の柵に顔をはめて泣きながら私を待っていて、それを見かねて何度か早めにお迎えに行ったこともあるんです。しかし、そんな佑樹も年少の終わり頃には園に慣れてきて、先生にべったりくっつくようになりました。これも、アットホームで一人ひとりを大切にしてくださるあたたかい雰囲気があったからでしょうね。それからはもう安心して園にお任せしています。先生の上手な促しのおかげで入園前には想像もできない程よく話しますし、様々なことに興味を持つようになり、この2年間の成長には本当に驚きました。今回の教育後援



会会長も幼稚園への恩返しの意味を込めてお引き受けさせていただいたんです。手探りの子育てで、何から何までご指導いただいて、先生方には本当に感謝しています。

Interview 01

愛知学泉短期大学附属幼稚園



沓名家

母：久美子さん

子：佑樹くん
(地球組)



サマーキャンプで木
製キーホルダー作り。
上手にできました！



安城七夕まつりで
鼓笛パレードを披
露しました。

愛知学泉
短期大学附属幼稚園
新園長



岡本 富子 先生

今年度からどうぞ
よろしく願っています

豊田市の公立こども園で40年勤め、今年度より愛知学泉短期大学附属幼稚園でお世話になることになりました。短大幼稚園の園児の皆さんはのびのびと子どもらしく、先生方も明るく協力的で、自然と助け合えるとても素敵な雰囲気があります。先代の先生方が築いてきた本園の教育理念を基に「一人ひとりを大切に」する現在の園のスタイルを守りつつ、子どもたち一人ひとりの可能性を広げられる保育を実践していきたいと考えています。「子どものすることに無駄なことはない」と言われます。子どもたちが目的をもって取り組めるようにすると、自分で考えたり工夫したりする中、必要な力を身に付けていきます。子どもたちの姿をしっかりと見つめ、その子に必要な学びに繋げていきたいと思っています。私自身も毎日が試行錯誤ですが、園長として園全体を見ることはもちろん、子どもたちの心もちに気を配り、保護者の方の心配や不安に寄り添い、子どもたちの健やかな成長と一緒に考えていけたらと思います。

学校法人安城学園 創立 105 周年記念事業のご紹介

本学園は、平成 29 年 4 月に創立 105 周年を迎えました。この記念する節目に「教育の質で勝負できる学校 -3 つの挑戦-」をテーマとし、年度初めから様々な記念事業を実施中です。ここにその一部をご紹介します。

東日本から学ぶプロジェクト



8 月 9 日（水）～ 13 日（日）、安城市中心市街地拠点施設・アンフォーレで「2017 夏“東日本”から学ぶべきこと」と題した展示会・フォーラムを開催いたしました。この企画では防災をテーマに「まちとつながる安城学園」が 6 年間にわたり行ってきた東日本大震災の被災地支援や地域交流活動を、パネル展示やフォーラムを通して発信し、また被災地交流コンサートなどを通して来場者の方に楽しんで頂くことができました。また写真展では、私達が現地ですべて見て感じた生の姿を出来る限り展示発表し、災害の恐ろしさを再認識して頂くと同時に、今からでもできる防災対策やその心構えなどを考えて頂きました。



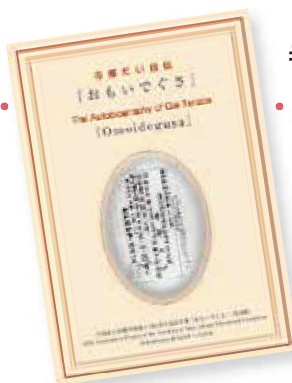
安城学園高等学校
前校長 坂田 成夫

3.11 の震災以来、東北の被災地との交流を始めて 7 年目に入っています。安城学園高校では毎年、生徒会の大船渡盛町七夕支援、合唱部・弦楽部・吹奏楽部のコンサート、地歴公民科の社会科セミナー、野球部・男子サッカー部の被災地支援活動等で被災地への訪問活動を続けています。6 年余の活動を通して東北のこと、震災のこと、防災のことなど多くのことを学び、考えてきました。

今回の企画では本学園全体の「東日本から学ぶプロジェクト」の 6 年余の取り組みを紹介するとともに、あらためて被災地との交流、震災の恐ろしさ、そして地域の繋がりの大切さを考える一助になればと考えて開催しました。今後も「防災」「交流」「学び」をキーワードにして「東日本から学ぶプロジェクト事業」の展開に寄与していきたいと思っております。

防災フォーラム

上記プロジェクト 3 日目の 8 月 11 日（金）には、「3.11 を忘れない～安城で取り組むべき防災～」をメインテーマに防災フォーラムが行われました。パネリストには安城学園高校の生徒会ほか、気仙沼市元危機管理監の方や安城市役所危機管理課のご担当者、城南町の自主防災会会長、安城市立安城南中学校生徒会、安城市立錦町小学校児童会が参加し、防災を意識したまちづくりについて、活発に議論を繰り返しました。またフォーラムに先立ち、石巻専修大学前学長の坂田隆先生に「3.11 で体験したこと」をテーマに講演を頂きました。



寺部だい自伝「おもいでぐさ」英語・日本語対訳版

安城学園の創立者・寺部だい先生の生き様を通して建学の精神を学ぶことのできる著書「おもいでぐさ」が、105 周年を記念して英語・日本語対訳版を発刊しました。明治・大正・昭和という時代を生きただい先生の軌跡をたどり、今に続く建学の精神を改めて心に刻むと同時に、生きた教材として学生、生徒の英文読解力の向上にも役立てることが出来ます。もちろん諸外国の方に本学園を理解して頂く絶好のツールでもあります。皆さん是非お手にとってご覧ください。



岡崎城西高等学校
教諭 小島 由美

この度、英語部の生徒と共に、創立者 寺部だい先生の自伝「おもいでぐさ」を英語に翻訳する機会を与えて下さり幸甚の至りです。著書を読み合わせて、教育の大切さを実践された寺部だい先生の生き様に触れ、私自身大変励まされることが多くありました。

だい先生の生涯学習を表すのに相応しい英語表現を探ることも大変有意義な勉強となりました。母国語である日本語を正しく理解することが外国語の発達を促します。英語に訳すことを考えて読んでみて下さい。多くの協力者のご支援を賜り一冊の本が完成しました。一人でも多くの方に読んで頂ければ嬉しく思います。

貴重な体験をさせて頂き、私を始め部員一同感謝の気持ちです。本当にありがとうございました。

